第３号

学校と家庭を結ぶ

ＣＪＳＳたより

令和2年 6月 6日

カンタベリー補習授業校

TEL 03-348－9512

www.cjssnz.org admin@cjssnz.org

卒業文集

昨年度の中学部３年生が補習校を卒業するに際して、記念の文集を作成しました。その内容がとても素直に自分の気持ちを表現しています。15 歳の心境はなかなか難しいものがあります。親から見ると計り知れないような心からの絞り出した日本語表現もあります。是非、保護者の皆様にも読んで頂けたらと思い掲載致します。

《僕の補習校》　ウイルソン澤田ヒューゴ

「楽しかった思い出」を書こうと思ったが何もうかばない。「辛かった思い出」を書こうと思ったらたくさんあった。いつも辛い思いをした。毎日宿題をして、週末漢字テスト。そして、忘れた頃にやってくる学期末テスト。日本語が苦手な僕は、何をするのにも長い時間がかかった。漢字が読めないので、母にも助けてもらった。クラスメイトの前で本読みするのが、大嫌いだった。家で練習していっても、教室に入ったら緊張して上手く読めなかった。ここまで思いつくままに書いてきたが、何となく暗くネガティブな感じがするが、実際はそうでもない。いつも友達はいたし、テストで良い点数をとったこともある。でも、一番印象に残っているのは、「メッセージカード」だ。休学中にクリケットで良い結果が出せないときが続いた。そんなとき、蔵ヶ崎先生から漢字スキルと一緒に届いた「メッセージカード」。クラスメイトからの応援メッセージだった。本当にうれしかった。ここまで続けてきて良かったと思った。先生、クラスメイトのみんな、ありがとうございました。

《補習校の思い出》　大林　はな

私はあと二週間で補習校を卒業します。もうすぐで十年間ずっと通ってきた補習校が終わるなんて想像もつきません。正直、私は「補習校は嫌いだ。」とずっと思っていました。宿題も多く、授業も難しくて、あまり漢字が読めなかったからです。しかし、今私が補習校の思い出を思い浮かべると、嬉しい思いとありがたい思い出がいっぱいです。毎週補習校でしか会わない友達と話したりすることがすごく楽しいし、年に一回しかない補習校祭りも一生心に残る大切な思い出になりました。そして、私は補習校に行かなかったとしたら、今みたいに日本語

でスラスラと読み、書き、話すことができなかったと思うから、ここに来てすごくありがたいと思っています。毎週シンクロや現地の学校でいそがしいけど、補習校にも通わなければいけなかったのは辛かったけれど、補習校のおかげであきらめない力も習いました。補習校はとにかくつらかったけど、ここで作ったいろいろな友達や思い出は本当に大切な宝物になりました。補習校に最後まで通えて、本当にありがたいです。

《補習校で学んだ色々なこと》　　川野　愛奈

　私はこの国のこの地域で生まれ、この補習校に通えたことに心から感謝しています。ここにしかいない先生や、ここにしかない環境に囲まれているからこそ今の私が存在しているんだと思います。物をデザインしたり作ったりするのが好きな私は将来エンジニア関係の仕事に就きたいです。その時に補習校で学んだことが絶対役に立つと思います。人前での話し方、討論の仕方、勿論日本語も。それに補習校には何度も助けられました。補習校で数学や作文などの基礎を学んでいるから現地校で苦労しなかったり、補習校で日本の文化や歴史を学んでいたから、友達やクラスの子に日本のことを聞かれてもちゃんと答えられたり、面倒くさいことを頼まれたら、ごめん補習校があるから、宿題があるから、と上手く回避できたり、感謝しています。補習校を卒業してしまった後が心配なので、中学までではなく高校まで作って欲しいくらいです。 特に今年私は生徒会会長を務めさせてもらえて、沢山のことを学びました。私はつい最近まで人と話すのが苦手で、人前に出て喋るのもなるべく避けたい程でした。それが生徒会に入り沢山の方々と関わりを持って、生徒会の皆と活動を進めていく中、気付いたら人見知りも無くなっていました。それに相談ボックスの回答を生徒に読んでもらえたり、七夕の劇で笑ってもらえたり、節分には鬼になって豆を配ったり。めっちゃ楽しくめっちゃ嬉しいことばかりでした。特に今回の送辞に相談ボックスの私達の回答を楽しみに質問を入れた、という文があり、達成感というか、充足感というか。私達のやっていたことにはちゃんと意味があったんだな、と感じました。生徒会には本当に感謝しています。勿論、生徒会だけではなく協力してくださった先生方や両親、友達やクラスメイトの助けがあったからの結果だと思っています。本当に感謝しています。補習校で過ごした九年間は絶対に無駄にはしません。必ず、これからの人生で活かしていきます。

《補習校の感想》　　窪田　翔

　「僕は補習校に通い始めた最初の日を覚えています。カバンにぎっしりとつまった重い教科書を運んで僕にはとても大きく見えたアイラムスクールを歩き回っていた僕は、楽しくてたまりませんでした。校長先生の長いスピーチの後、教室へ連れて行かれ、初めての日本の国語の授業が始まりました。」そんなことを言えたらいいなとぼくは度々思います。正直に言うと、僕は中１より前は、ほぼ何も覚えていません。その年の先生も、五年生からぐらいしか覚えていません。

僕がそんなに何も覚えていなかったのは、日本語を習おうとする決意が少なかったからだと思います。五年生の先生はよく覚えています。当時の僕は結構ななまけ者で、その先生は何度も僕を叱ったり、廊下に立たせたりしました。そのため、五年生の先生の印象は強く残っています。そこから、中学時代。ここからは、僕は現地校の高校へ入学し、たくさんの音楽関係の部活に入りました。それで、その部活と補習校が重なり始め、僕は補習校を休み始めました。前回の授業に来ていなかったため、僕は授業にすごく集中し始めました。だから、僕は中学の三年間しか覚えていないんだと思います。僕は卒業スピーチに、「補習校で過ごした1440 時間、悔いはありません。」と書きました、それは間違っています。僕はその時間のたくさんは過ごしていなく、そのことも他にたくさんのことも悔いを残しています。ただし、補習校で習ったことは一生忘れないと思います。補習校に通ったことは、一切、悔いはありません。

《九年間の思い出》　　グラハム　舞子

私はひよこどんの幼稚園から通っています。小学校も最後まで行きました。中学校は途中で日本に行きましたが戻ってきてまた続けました。私はこの学校でいろいろ学び、苦しみ、楽しみました。多分一番楽しかったのは小学生の時だと思います。みんなで遊んだり、勉強会をしたり、みんなで授業を受けたりするのがすごく楽しかったです。毎週漢字テストで友達より高い点数をとってみたり、数学でかけ算を一番早く覚えたくて、毎日練習したりしました。

国語の授業で読んだ話は今でも覚えています。「スイミー」「おむすびころりん」「ちいちゃんのかげおくり」などすごく思い出に残っています。でも中学生になるとどんどん授業が難しくなって、やる気が少しずつ無くなっていました。毎週土曜日友達から遊ぼうって誘われても、毎回断って悲しかったです。宿題も多くて夜遅くまで起きていたり、てつやしたり、できなくてよく泣いていました。でもやめずに頑張ってきました。補習校は将来のために役立つと思います。先生や友達、特に両親には本当に感謝しています。

《十年通った補習校》　　グレイ はな

卒業式まであと一ヶ月になりました。これを書きながら、補習校に通った十年間を思い出してみました。補習校のない土曜日のことは、全然覚えていません。土曜日はいつも、補習校がありました。私の土曜日は、朝早く起きて漢字練習や、宿題のチェックをします。そのあと、新体操のトレーニングに行って、四時間トレーニングをします。終わったら、急いで家に帰って、昼ご飯を食べてから、また急いで補習校に行きます。でもあと一ヶ月で、補習校に行かない生活が始まるのです。今はまだ、補習校のない土曜日は想像できません。でもきっと、宿題をしないかわりに、日本のアニメを見たり、友達と遊んだり、楽しいことをすると思います。この十年間をふり返ってみると、一番楽しかった思い出はやっぱり卒業キャンプです。クラスのみ

んなと仲良く遊んだことや、きれいな湖でカヤックをした思い出は、大人になっても忘れられない大切な出来事です。卒業するのは嬉しいけれど、毎週友達と会えなくなるのは、とても淋しいです。この十年間の経験は、これから大変なことがあっても、がんばる力になると思います。

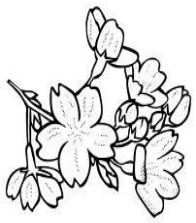
《補習校の思い出》　　澤崎　純弥

　僕が、補習校の中学部に入った頃は、まだ三年もあるのかなと思っていました。しかし、気がつけば、あっという間に中学二年、三年となっていきもう卒業するというのだから、時間の流れの早さというものを実感しました。それもとても楽しい補習校生活を送ることができたからだと思います。そして、そんな楽しい補習校生活を送ることができたのも一緒に学び遊んだ友達や授業をしてくださった先生方、補習校に通わせてくれた両親やその他の大勢の人たちの力があったからです。　僕はこの補習校を卒業すると思うと、とても寂しく思います。なぜなら、僕は勉強は嫌いですが、この一週間に一度しかない補習校での時間は好きだったからです。そのため楽しく数え切れない程の沢山の思い出があるからです。いくつか例を挙げるとするなら、補習校祭りや生徒会の仕事、卒業キャンプ、そして何気ない週に一回の補習校生活などです。日々卒業に近づいているのを実感すると同時に、僕も日々成長しているのだと思うこともあり、補習校を卒業することを成長している証だと思い、嬉しくも思います。最後に、こんなにも楽しい補習校に通うことができて、僕は本当に良かったです。

《私の補習校生活》　　反町千那鶴

　今まで私にとっては、補習校は人生で一番大嫌いなことでした。何で毎週土曜日に学校に行かなくてはならないの？何でいつも友達の誕生会に行けないの？現地校では他にだれもやっていないのに、と十年間考えながら通ってきました。でも、去年の１月頃に、「中三を続けたい？」と母に聞かれたとき、私は「続けたい」と答えたので自分でびっくりしてしまいました。この頃はもう勉強も全然できていなかったけれど、補習校が楽しくなってたみたいです。クライストチャーチに住んでいないから、来ないと会えない友達、そして将来いつかは便利になると学んだおかげで、十一年間待ち続けた卒業式に出られます。今まだ信じるのは難しいけれど、本当に補習校に来たのは、いつか役に立つと分かっています。昔の「補習校が嫌い」や「時間とお金の無駄」が、いつの間に「あと二週間で終わりって怖い」になっていました。

　本当に父や母、先生方にありがたいです。日本語を話せるし、書けるし、読めるようになりました。補習校に通わなかったら、この三つのことは絶対にできません。そして、特に中学三年の友達、二人がいなかったら、絶対にいつも「できたらいいな」と思っていた卒業式に出席できません。長い十一年間でしたけれど、がんばってよかったです。やっと補習校での時間は終わるけれど、いつまでも学んだスキルを使います。ありがとうございました。



《一番心に残った思い出》　　戸張 千尋

補習校に通った九年間、僕はいろいろなことを感じました。楽しさ、怒り、退屈さ、イライラ感、そして、悔しさ。ちょっとしたミスのせいでテストで百点を取れなかったり、宿題が分からなかったりと、何度も感じていることです。多分補習校生活の中で一番多く感じたことだと思います。この「悔しさ」という気持ちが最も胸に焼き付いた時は小学校六年生の卒業式でした。この日に感じた悔しさと自分への怒りは決して忘れません。在校生の送辞が終わって、「卒業生、答辞」と上田先生の声がスピーカーからホールの中を響きました。「光！」と中三の一人が言った途端答辞が始まりました。僕はとても緊張していました。心臓が喉の中に飛び込んだような感じでした。しかしつっかえませんでした。毎週毎週、クラスと練習して、平日も家で頑張って練習した当時のことでしたから。皆でいうところは大きくて強く、一人のセリフはみんなそれぞれ格好良かったと思いました。「間違えたらヤバいぞ」、「間違えたら格好悪いぞ」という声がだんだん胸の底から聞こえてきました。自分のセリフを言う番が来ました。「地中から湧いてくるように増える漢字」までは完璧に言えたのですが、頭の中で、本当に「に」で正しいのかな？と考えてしまい、最後のところでつっかえてしまいました。後「に」をいうだけだったのにつっかえてしまった悔しさと怒りで、答辞が終わって退場するときに泣いてしまいました。皆が長い間頑張って練習した答辞を僕が台無しにしたのです。今振り返ってみると、これは悲しい思い出です。六年間毎週補習校に通い、週一回しか会えない友達と会ったり、新しい日本語を習う所の卒業式は、嬉しい行事のはずだったのに、僕にとっては悔しさと怒りの思い出になってしまったのです。　将来僕は悲しみ、または達成感を感じながらこれを読むでしょう。

《卒業》　　ハウデン えみり

補習校を始めたばかりの私は、漢字練習や宿題をするのがすごく苦手でした。何が嫌だったかと聞かれたら、ただ全然興味がなかったのだと思います。他の友達は、いつも土曜日に遊んでいたのに私だけ、「ごめん、補習校があるから遊べない。」と、何度も断りました。その時、（なんで補習校に行かないといけないのだろう。）と、初めて思いました。高学年になると、少しずつ私の考え方が変わり始めました。今の時代は、二ヵ国語が話せることはっ将来役に立つスキルだと気がついたからです。それからは、意味がないと思い込んでいた漢字練習や宿題も、自分から進んでやるようになりました。六年生になったとき、双子のサムは補習校をやめました。でも、私は中三まで続けようと決めました。なぜなら、一緒に励まし合って勉強を続けてきた友達がいたからです。そして、六年生でやめずに中三まで続け、こうやって卒業式を迎えて本当に良かったと思います。九年間支えてくれた友達がいなかったら、きっとやめていたと思います。補習校でつくった友達や補習校生活の思い出は私の宝物です。

《補習校の思い出》　浜田 昇太

補習校に入学してから、卒業する日をずっと待っていました。九年間をふり返ると、いつものように泣きながら宿題をして土曜日に涙で湿った紙のプリントを先生に出したり、すごく行きたかった誕生日会に行けなかったり、クラスメートがどんどん減っていって羨ましい気持ちもたくさん辛い思い出もあります。だが、六年生の修学旅行や中学三年の補習校キャンプなどいい思い出も作ることができました。こんな、いい経験と思い出ができたのは全てクラスメートたちや先生方や両親のおかげです。長い長い九年間でしたが、僕を今までずっと押してくれたみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。今までありがとうございました。

《補習校の思い出》　本江　瑛南

補習校は思い出がいっぱいある所です。いい思い出も、恥ずかしい思い出も、嫌な思い出も、楽しかったと思える思い出が一番多いです。九年間通った補習校のクラスメイトとすごく仲良くなりました。小学校六年間よりもこの三年間、そして特に卒業キャンプは親睦を深める良い機会でした。一週間に一回しか会わない友達も多いけれど、楽しいこと、辛いこと、色々な経験を通して絆を深めました。みんなといっぱい話できてすごく嬉しかったです。卒業したら会えないのはさみしいですが、一緒に過ごした時間を大切にします。よさこいも貴重な思い出の一つです。小学校三年生から七年間ずっと続けてきたのが自分でも驚きました。ジャパンデーや補習校祭り、大聖堂前、くらしきガーデンなど、様々なところで踊りました。「かまえ」の号令は一番最初にかける重要な言葉で、今年は私が任されてすごく嬉しかったです。今年最後のジャパンデーでの披露に向けて、大きな声でみんなをまとめられるよう心がけて、気持ちを込めて、頑張っていきたいと思います。卒業キャンプは楽しかったです。協力し合いながら作ったカレーや、一緒にゲームを遊んだこと、熱い日のカヤック、苦労したサイクリングなど色々な思い出があって、いつまでも心に残る貴重な時間でした。私にとって、補習校とは思い出がいっぱいある所です。苦労もありましたが、九年間通った補習校は本当に楽しかったです。これからも、人生の色々な場面で補習校のことを思い出すことがあると思います。

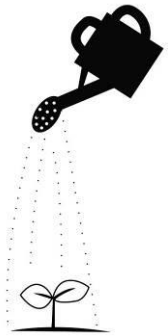
《九年間を振り返ってみて》　宮本　慧

私は小さい頃は補習校に行くということは普通だと思っていて、現地校に行くことと同じように考えていました。だから、別に退屈だとか嫌だと思うこともありませんでした。でも大きくなっていくにつれて、私の友達は毎週土曜日学校に行かないで遊んでいると知ると不公平で補習校が嫌と言うことが増えてきました。「何のために補習校に行っているの」など、その時には分かっていなかった補習校に行く意味について問いかけることもありました。毎週の宿題をどう終わらせるかのタイムマネージメントに慣れるまでには時間はかかるし、何週間もかけて書く作文は一生終わらないように感じました。でもその補習校に行く意味は、通える時間が後少しだと実感する時に気付くものなのです。小さい頃からずっと一緒に勉強していた子とも、卒業

してしまえば会える機会がとても少なくなってしまいます。日本語を勉強していた子とも、現地校より早く数学を習うこともなくなるのです。そう考えると今まで補習校から私は色々な人間関係や知識を得ていたと気付けました。だから、色々大変な時もあったけど、それでも乗り越えて補習校に通ったことは私の人生の中で一番の功績だと思います。乗り越えられたのも、私の両親の支えと補習校の友達が一緒に頑張ってくれたからだと思います。

《補習校に九年間通ってきて》　　山口　すい

この九年間補習校に通ってきて、大変だった時、苦しかった時、楽しかった時、色々なことを経験することができました。私にとっての補習校は昔に比べてとても大切なものです。昔は勉強が嫌いだったり、土曜日は友達と遊びたかったり、補習校に通っている本来の意味に気付いていませんでした。でも、中学に上がって、自分の中でなぜ補習校に通っているのかに気付きました。それは、日本人の血が流れているのに、日本語を話せなかったらもったいなし悔しいからでした。それからは、補習校に来て、友達と遊び日本語を学ぶのが楽しくなりました。補習校に通ってきて本当によかったと実感できた理由は、日本に行ったからです。

《補習校に通って》　　リーサム　樹莉亜

補習校から卒業する日がまだまだ来ないと思っているうちにいよいよ来週です。待ちに待っていたこの日がやっと来て嬉しい気持ちだけではありません。何年間も毎週会っていた友達には会えなくなるし、私の生活の一部だった補習校はもうこれで終わると考えたら寂しくなります。五年生頃までは補習校に嫌々通っていたけど、それからは通うのが楽しくなりました。特に中学生は通うのか迷ったけれど自分の選択で来ることを決めました。クラスは段々小さくなってしまいましたが、みんなが段々仲良くなってきたのでここまで来たのは後悔していません。補習校でできた友達や思い出は一生の宝物としてとっておきます。夏休みに行った中3のキャンプは一番の思い出になります。普段、補習校以外では会わないクラスメートと過ごした二日間は最高でした。補習校はあと一回で終わるけれど、今まで習ったことは忘れません。いつか将来に役立つと信じています。ここまでこれたのは先生、友達、そして両親のおかげです。特に蔵が崎先生は今年を楽しい一年にしてくれて本当にありがとうございます。